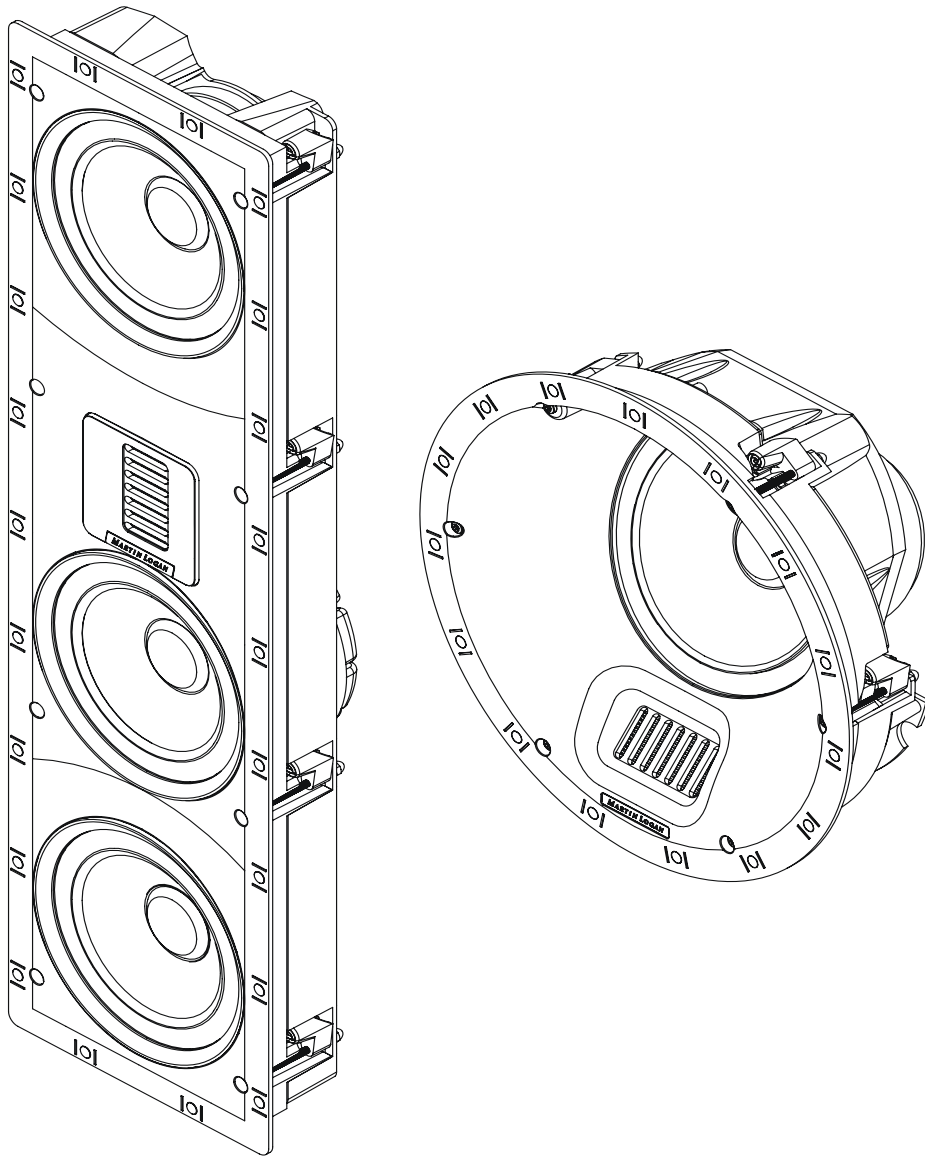


# XTW6 | XTC8 | XTC8-HT XTW5-LCR | XTW6-LCR

## 取扱説明書



Motion® XT  
MARTIN LOGAN

プレインストールブラケット(別売)については、お近くのMartinLogan販売店にお問い合わせください

同梱品チェックリスト.....	2	天井設置(図解).....	10
安全に関する警告.....	2	壁設置(図解).....	11
角型グリル、プレインストール・ブラケット、 バックボックス.....	3	インストール.....	12
スピーカーの保護.....	4	スピーカーグリルの塗装について.....	13
慣らし運転.....	4	よくある質問.....	14
スピーカーの設置に関して.....	4	サービスについて.....	15
設置オプション(全機種).....	5	Specifications.....	16
設置オプション(XTC8-HT).....	8		
接続.....	9		

## 同梱品チェックリスト

MartinLogan スピーカーには、以下のものが同梱されています。ご不明な点がございましたら、正規販売店までお問い合わせください。

- インストール・テンプレート
- グリルカバー

## 安全に関する警告



正三角形の中にある稲妻の閃光と矢じりのシンボルは、製品の筐体内に感電の危険を引き起こすのに十分な大きさの絶縁されていない「危険電圧」が存在することをユーザーに警告するためのものです。



正三角形の中の感嘆符は、本機に付属する文書に重要な操作およびメンテナンス(整備)の指示があることをユーザーに知らせるためのものです。



正三角形の中の火は、指示に従わないと火災の危険があることを警告するためのものです。



正三角形の中のドルマークは、指示に従わなければ、修理費が高額になる可能性のある損害を引き起こす危険性があることをユーザーに警告するためのものです。

### 警告!



- 修理は専門の技術者にご依頼ください。
- 火災や感電を防ぐため、湿気にさらさないでください。
- 異常がある場合は、アンプの電源をお切りください。
- スピーカーを定格出力以上で駆動させないでください。

---

## 角型グリル、プレインストール・ブラケット、バックボックス

一部のMartinLoganMotionシリーズCIスピーカーには、角型グリル、プレインストール用ブラケット、バックボックスが用意されています。

入手方法については、販売店にお問い合わせください。

---

## スピーカーの保護

- スピーカーの指定されたパワーハンドリングに合致するアンプを使用してください。
  - スピーカーが歪んだり、音が小さくなったり、低音が途切れ始めたりした場合は、破損を避けるため、音量を下げてください。
  - トーンコントロールやイコライザーは、特に大音量で使用すると歪みが発生する可能性があります。これらの設定は控えめにしてください。
- 

## 慣らし運転

スピーカーを再生し始めた当初は、少し低音が控えめに聴こえます。これは、ドライバーに使用されている高品質で長寿命の部品によるものです。重要なリスニングを行う前には90dB（中程度のリスニングレベル）で約72時間の慣らし運転を行ってください。

---

## スピーカーの設置に関して

### 取り付け位置の選択

スピーカーは、壁のスタッドまたは天井の梁の間に設置し、壁面の裏側に電線がないように注意してください。XTC8、XTC8-HTは天井埋め込みでのみご使用ください。

### 壁の剛性がより良いサウンドをもたらします

壁の剛性を上げると、音響性能が向上する場合があります。これを行うには、スピーカーの上下約30cmの壁の内側にクロスブレースを追加することを検討してください。

### 優れた音像定位の実現

MartinLoganの壁埋込および天井埋込スピーカーは、ほぼすべての場所で優れたイメージングと柔軟な配置を提供します。ただし、最高のパフォーマンスとイメージングを実現するには、スピーカーをリスニング・ポジションから等距離に配置し、スピーカーとリスニングポジションの間に物理的な障害物がないようにします。

### 硬質面と軟質面のバランスで高域と中域の性能が向上します

カーペット、ドレープ、その他の吸音材で「過度に減衰」している部屋は、システムは鈍くて活気がないように聴こえます。一方、部屋には非常に多くの硬い表面がある場合、システムは体育館のように聴こえます。自分にとって心地よいミックスになるまで、軟質面を増減させて、試してみてください。

### 低音出力のバランス

スピーカーをコーナーに設置すると、低音出力が強調されます。全音域に渡ってバランスのとれた出力が必要な場合は、コーナーへの設置は避けてください。

設置場所を選ぶ際には、以下の簡単な推奨事項に従ってください。なお、これらはあくまでも推奨事項であり、お客様の設置条件によっては異なる場合があります：

- ・壁の隅から最低30cmセンチ離してください。
- ・フロント/センターは、リスニングポジションから3～4.3mメートルの範囲で等距離に設置してください。
- ・XTC8とXTC8-HTは天井埋込専用です。

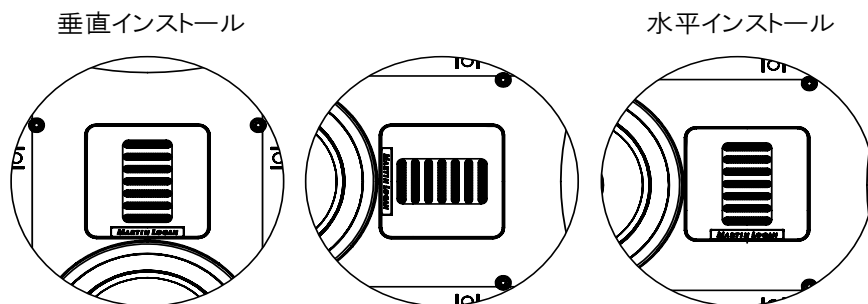
## 設置オプション(全機種)

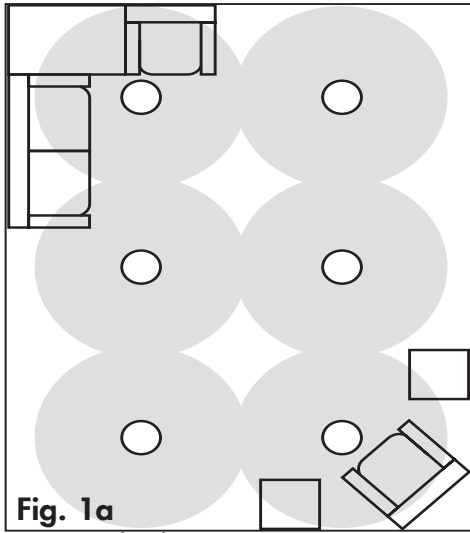
Motion XTシリーズのCIスピーカーには、MartinLoganの最高性能のFolded Motionツイーター、FMT XTが搭載されています。標準サイズのFMTを上回る性能に加え、このユニークな薄膜ツイーターは、 $80^{\circ} \times 30^{\circ}$  というさらに制御された分散パターンを備えています。この制御された「音の円錐」は、望ましくない音響的相互作用をさらに低減し、音質低下の原因となる部屋の音の反射を避けるために非常に有効です。最適なパフォーマンスを得るには、スピーカーの取り付け位置に注意し、主なリスニング・エリアがツイーターの分散パターン内にあることを確認してください。リスナーがスピーカーから遠ざかるほど、ツイーターのカバーエリアが広くなることにご注意ください。FMT XTツイーターのユニークな分散により、Motion XT CI壁埋込型スピーカーの分散またはカバレッジ・エリアは、ツイーターを水平または垂直に配置することで調整することが可能です。壁埋込スピーカーの初期設定では、ツイーターが垂直方向に取り付けられており、 $80^{\circ} \times 30^{\circ}$  の指向性パターンを実現しています。部屋のレイアウト、座席の位置、設置条件に応じて、ツイーターを水平または垂直のどちらかの向きで使用することで、特定のニーズに最適なカバレッジを提供することができます。例えば、壁埋込型スピーカーを壁の高い位置(リスニングポイントの高さよりかなり上)に設置する場合、ツイーターを「水平」位置にして、分散パターンを $30^{\circ} \times 80^{\circ}$  にすると、主要リスニング・エリアがツイーターのカバー範囲に入るの、より効果的なことがあります。言い換えれば、FMT XTは $80^{\circ} \times 30^{\circ}$  の分散を提供し、最高のカバレッジとパフォーマンスを提供するために、どの方向があなたのシステムに適しているかを決定することができるのです。よりコントロールされた $30^{\circ}$  の分散面は、不要な音の反射を除去したり特にオープンなフロアプランの場合、家の他のエリアへの不要な「音漏れ」を低減するために使用することができます。コントロールされた分散は、実際に重要な場所、つまりあなたの耳により良い音質を提供するためのツールです。このため、どちらのオプションが正しい選択かを決めるために、自由に両方のオプションを試してみてください。

## ステレオおよびホームシアター用途(図なし)

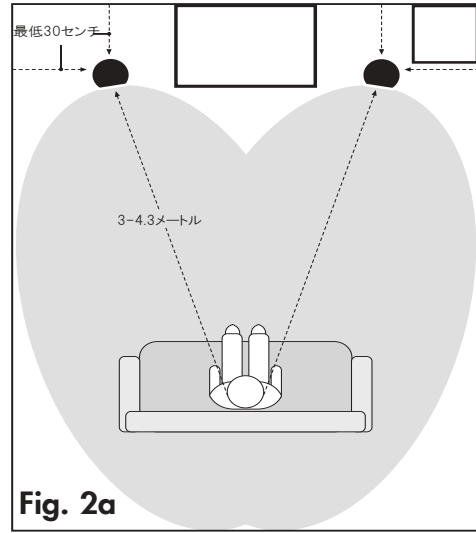
MartinLogan Motion XTシリーズの壁埋込型および天井埋込型スピーカーは、2チャンネル・ステレオおよびマルチチャンネル・ホームシアターの設置に最適です。前項のガイドラインは、壁埋込型および天井埋込型スピーカーのどちらにも適用されます。

## ツイーターは90°回転します

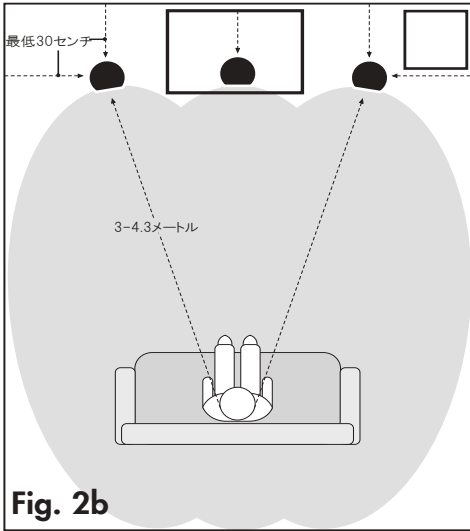




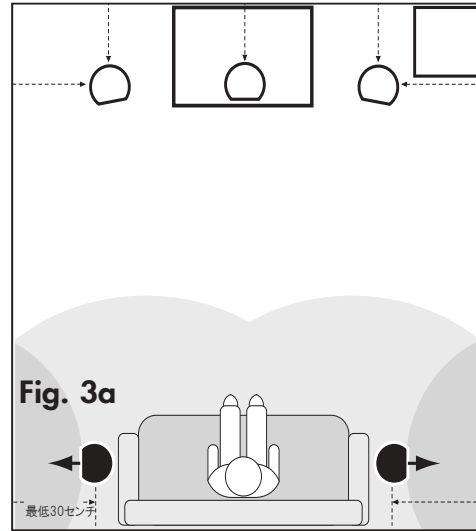
**Fig. 1a**  
マルチスピーカー、  
マルチルームオーディオ



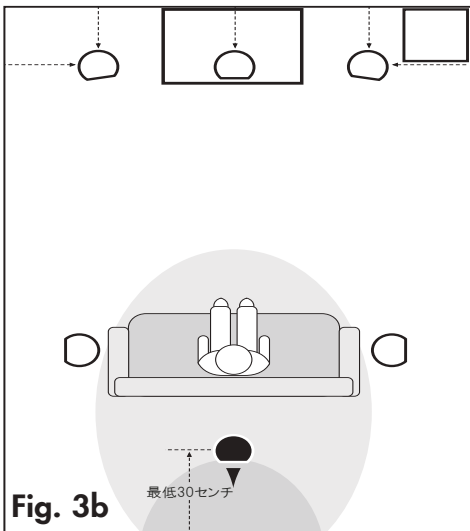
**Fig. 2a**  
フロントL/Rスピーカー



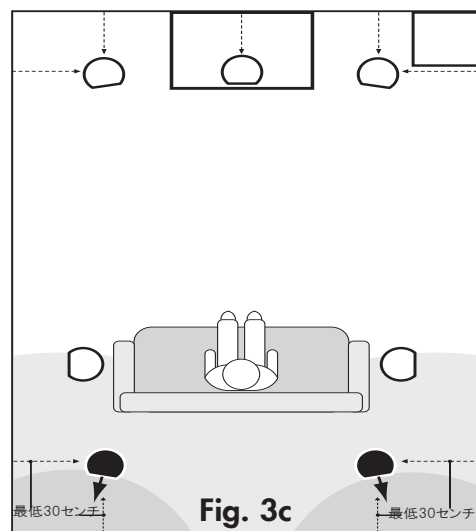
**Fig. 2b**  
フロントL/C/Rスピーカー



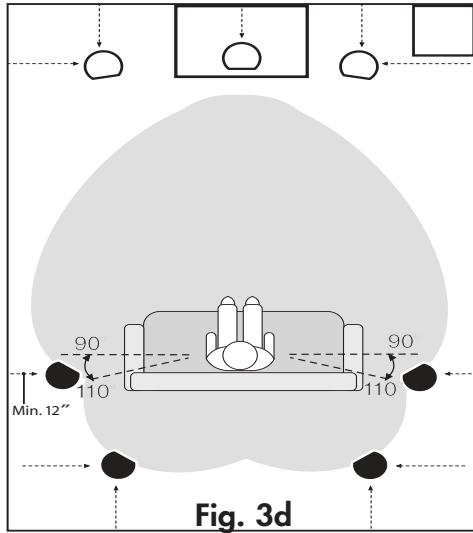
**Fig. 3a**  
XTC8-HT: 5.1chシステムでの  
非ダイレクト・サラウンドチャンネル



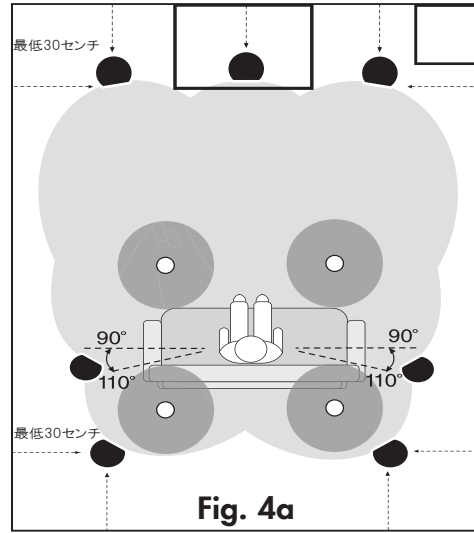
**Fig. 3b**  
XTC8-HT: 6.1chシステムでの  
非ダイレクトサラウンドチャンネル



**Fig. 3c**  
XTC8-HT: 7.1chシステムでの  
非ダイレクトサラウンドチャンネル



XTC8-HT: 7.1chシステムでの ダイレクト・サラウンド&リアチャンネル



XTC8-HT: ATMOSハイトスピーカー対応 7.1.4chシステムでのダイレクトL/C/R/サラウンド/リアチャンネル

## マルチスピーカー、マルチルーム・オーディオ (Fig. 1a)

広い場所（オフィスなど）では、複数のスピーカーを使用すると、部屋を動き回ったり、片方のスピーカーに近い席に座ったときに、別々のステレオスピーカーで発生する音のアンバランスを解消することができます。メインリスニング・エリアで最も広い音域をカバーするようにスピーカーを配置します。角度のついたXTC8-HTは、カバーしようとするエリアに向けて音を集中させることができます。

---

## 設置オプション (XTC8-HT)

XTC8-HT スピーカーは、天井高が2.4～2.74mの部屋での使用に最適化されています。ツイーターは主なリスニングポジションに向けます。全体的な明瞭度とバランスのとれた低音性能を得るには、Fig.3a～3fに示すように、壁から30 cm以上離れた天井に取り付けてください。

### フロントチャンネル配置 (Fig. 2a & 2b)

フロントスピーカーから主なリスニングエリアまでの距離は、図のように3～4.3 mになるようにしてください。ドライバーをリスニングポジションに向けます。

### 非ダイレクト・サラウンド/リアチャンネル配置 (Fig. 3a-3c)

サラウンドチャンネルやサラウンドバックチャンネルとしても最適です。音が壁に反射するようにスピーカーを設置すると、包み込まれるような余韻のある音場が生まれます。スピーカーの取り付けは、壁から30cm以上離してください。

- **5.1chサラウンド配置 (Fig. 3a):** スピーカーをリスニングエリアの左右に1台ずつ、ドライバーを側壁に向けて設置します。
- **6.1chリア配置 (Fig. 3b):** 5.1chサラウンド配置(上記)から始めてください。1台のスピーカーをリスニングエリアの後ろの中央に配置し、ドライバーを後方の壁に向けます。
- **7.1chリア配置 (Fig. 3c):** 5.1chサラウンド配置(上記)から始めてください。もう1組のXTC8-HTスピーカーをリスニングエリアの後方に、一方はやや右側に、もう一方はやや左側に配置し、ドライバーは図のように部屋の後方に向けます。

### ダイレクト・サラウンド&リアチャンネル (Fig. 3d)

XTC8-HTはドライバーをリスニングエリアに向けて設置し、直接放射型スピーカーとして使用することができます。Fig. 3dを参考に、ご自分の部屋で最適なサラウンドサウンドを実現するために、試行錯誤しながら位置を決めてください。



### Motion XT LCRモデルの配置 (Fig.4a)

XTW5-LCRとXTW6-LCRは、ステレオやホームシアターの壁面設置に使用できる真のLCR(レフト、センター、ライト)モデルです。両モデルとも、設置場所に合わせて縦置き、横置きのどちらでも使用できるように設計されています。XTW6-LCRの専用ミッドレンジドライバーは、水平に設置した場合、非対称のドライバーレイアウトになります。このデザインは、このレイアウトで使用した場合、スピーカーの性能に悪影響を与えません。また、ツイーターの位置ではなく、その外形寸法に従って配置する必要があります。XTW6-LCRを水平に取り付ける場合、スピーカーの余分な幅に対応するため、スタッドベイの改造やフレームアウトが必要になる場合があります。このような改造が必要な場合は、認可を受けた業者に相談し、適切な指導や支援を受けてください。

---

### 接続

赤(+)アンプ端子と赤(+)スピーカー端子を接続します。

黒(-)アンプ端子と黒(-)スピーカー端子を接続します。

### インストール

**注意:** この説明書は、取り付け面が標準的な木造フレームと標準的なシートロック構造であることを前提としています。それ以外の素材にスピーカーを取り付ける場合はインストーラーに依頼する必要があります。

**注意:** プレインインストールブラケット、スクエアグリル(天井埋込型のみ)、バックボックス(天井埋込型のみ)(アクセサリは別売)については、お近くの販売店にお問い合わせください。

**注意:** 手動ドライバーでの取り付けも可能ですが、電動ドリルでの取り付けを強くお勧めします。クランプの損傷や破損を防ぐため、ドリルは高速かつ低トルクの設定にしてください。高トルク設定は不要であり、高トルクでは、クランプが割れたり破損したりする可能性があります。このような損傷は保証の対象外です。



**警告!** 設置する前に、地域の建築基準法を確認し、地域の規制を遵守していることを確認してください。



**警告!** 設置する前に、乾式壁の裏側に障害物がないことを確認してください。45°の角度で切り込み、小さな穴を開けます(障害物があった場合に補修しやすくなります)。取り付け穴を開けるのは、乾式壁の背後に障害物がないことを確認した後に行ってください。



**警告!** スピーカーケーブルは、壁埋込用として定格されたもののみを使用してください。



**警告!** 信号の接続や切断を行う前に、アンプの電源を切ってください。

### 推奨工具:

- スタッド・ファインダー
- ドライウォールナイフ
- 電動ドリル
- 低粘着テープ
- シャープペンシル/ペン
- ワイヤーストリッパー
- 巻き尺

## スピーカーの取り付けと接続 (図解)

注意: クランプが正しい位置にセットされていない場合は、クランプが正しい位置に来るまで、ドライバーを使用してネジを反時計回りに回してください。

### 天井設置

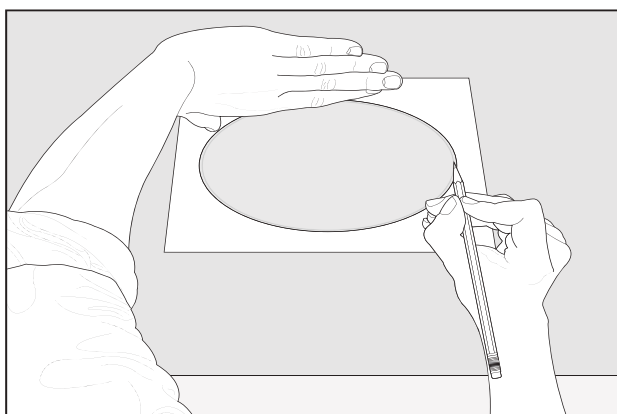
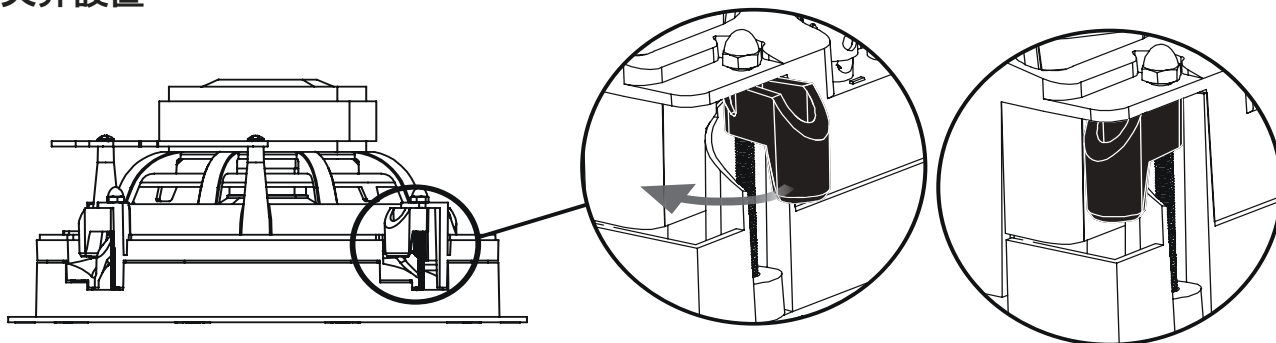


Fig. 5a

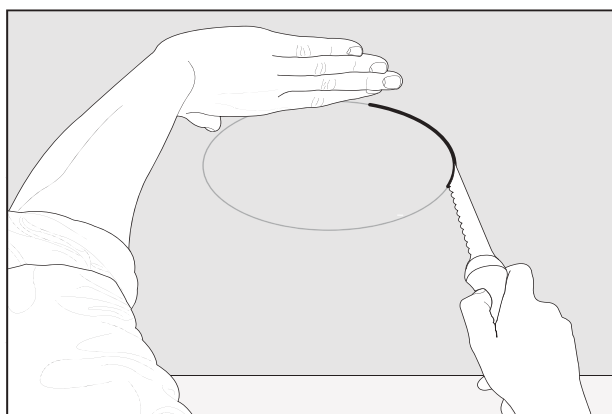


Fig. 5b

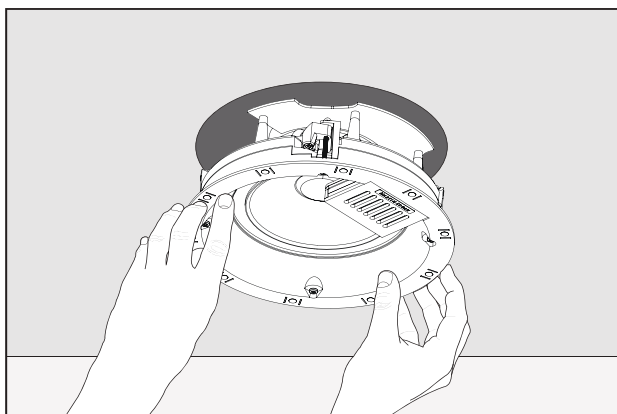


Fig. 5c

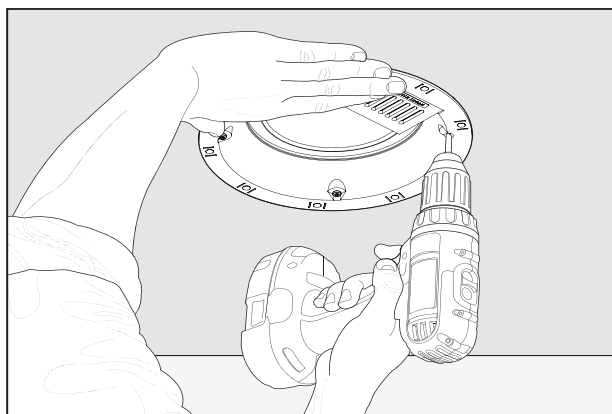


Fig. 5d

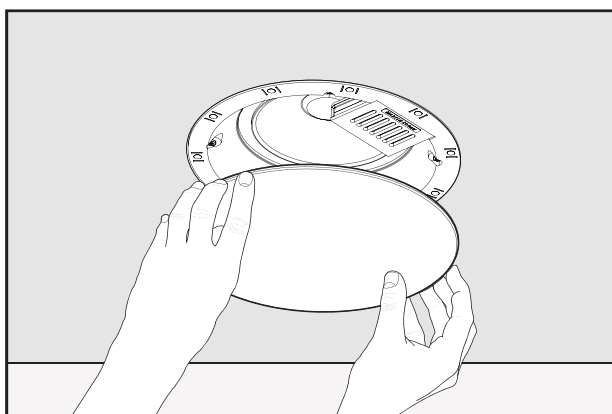


Fig. 5e

# 壁設置

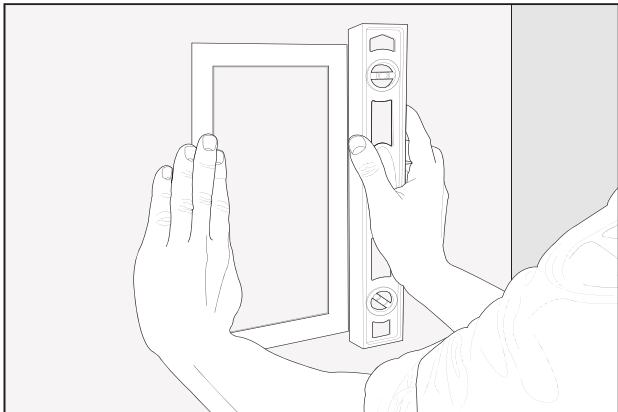
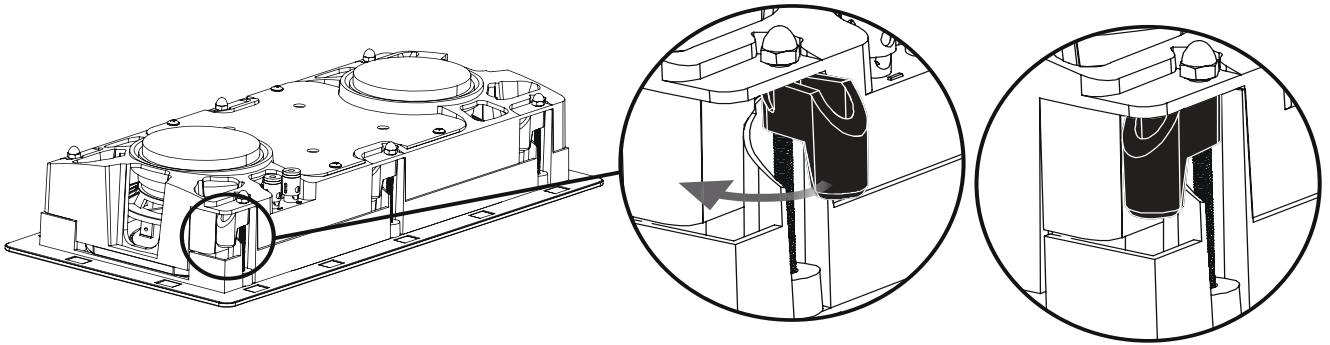


Fig. 6a

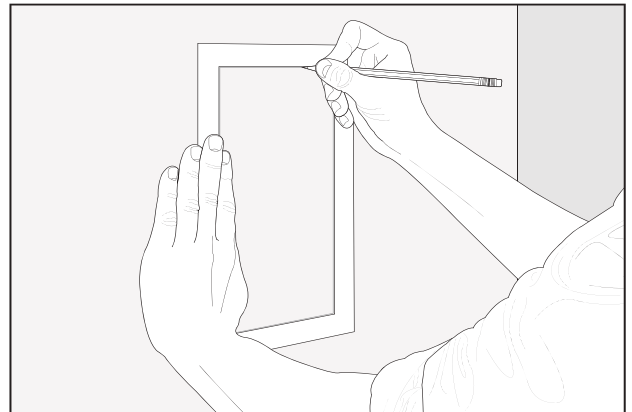


Fig. 6b

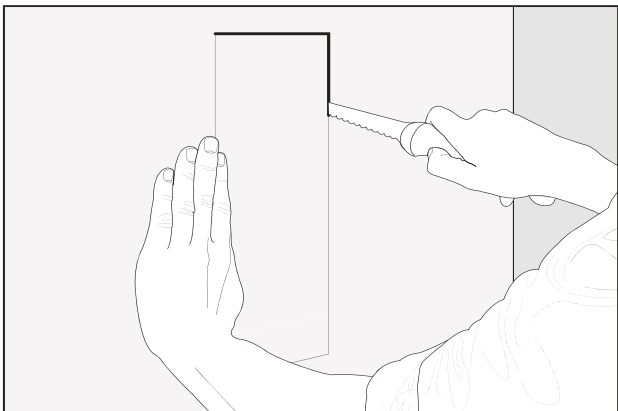


Fig. 6c

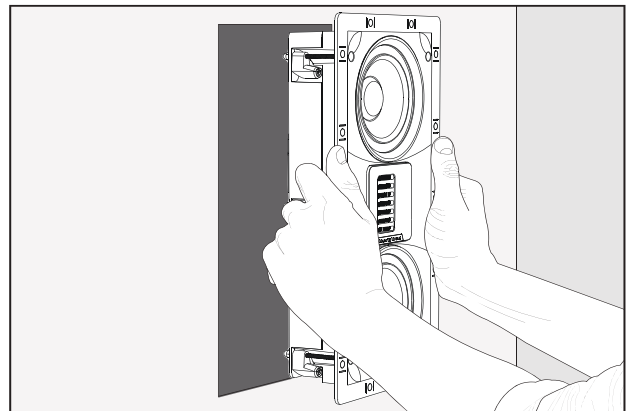


Fig. 6d

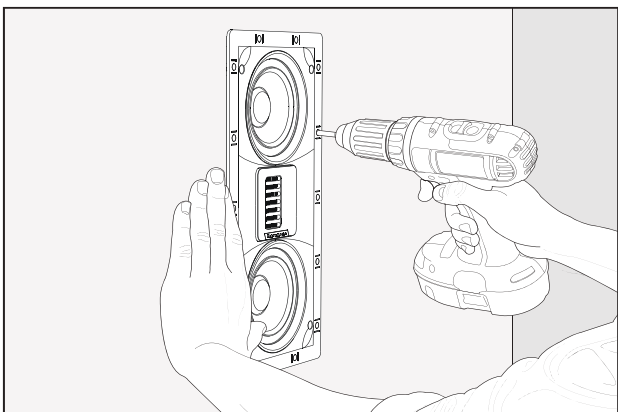


Fig. 6e

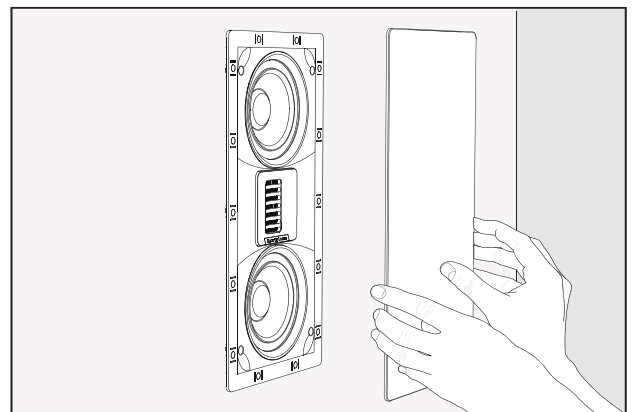


Fig. 6f

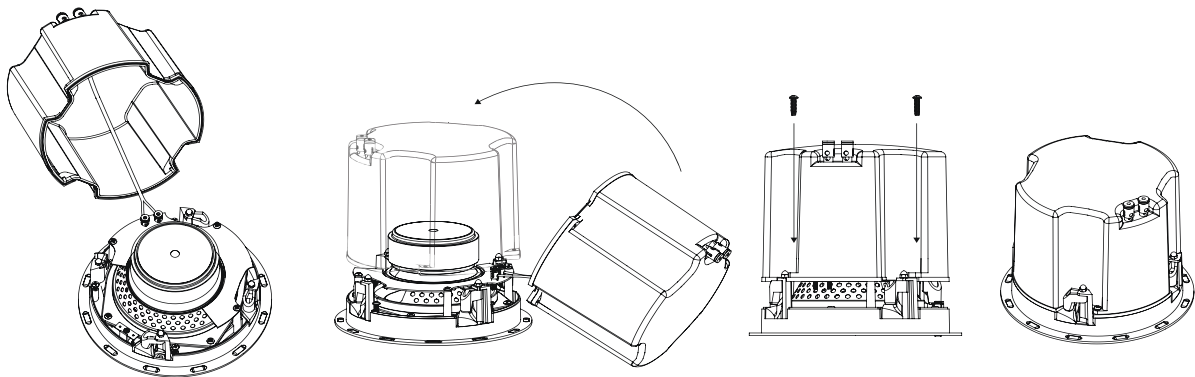
1. テンプレートに取り外し可能な中心がある場合は、この時点で取り外します。
2. スタッドファインダーを使用して、テンプレートを壁の間柱または天井梁の間に配置します。  
**XTC8と XTC8-HT: 天井埋め込みのみ。**
3. テンプレートをテープで固定し、鉛筆で切り抜き位置をマークします。長方形のスピーカーの場合、印をつける前にテンプレートを水平にします。(Figs. 5a, 6a.1, & 6a.2).
4. テンプレートを外し、ドライウォールナイフで開口部を切り取ります。(Figs. 5b & 6b).
5. **壁埋込:** 必要に応じて、切り取った穴の上下にグラスファイバーを入れます。スピーカーの後ろに厚さ1/2のグラスファイバーをいれます。  
**天井埋込:** 必要に応じて、スピーカーの真上の根太の間に30cm以上のグラスファイバーを入れます。
6. スピーカーケーブルを接続します。スピーカーのリード線と端子を接続するときは、統一してください。スピーカーとアンプの(+)端子には、必ず同じ色を使用してください。
7. 電動ドリルを高速、低トルクに設定します。
8. スピーカーのリップ部のクランプが、警告図に示されるように正確に配置されていることを確認してください。
9. アセンブリーを天井または壁の穴にゆっくりと押し込みます。(Figs. 5c & 6c).
10. 片手でアセンブリーを支え、電動ドリルとトルクスT20ビットで各ネジを締め付けます。抵抗を感じたら締め付けをやめます(Figs. 5d & 6d)。
11. グリルをゆっくりと押し込んでください (Figs. 5e & 6e).

## スピーカーグリルの塗装について

**重要：** 塗装する前に、スピーカーからグリルを取り外してください。グリルの裏側にあるスピーカーの表面は塗装しないでください。ペイントローラーを使用しないでください。

1. スピーカーからグリルを取り外します。
2. グリルの穴をふさがないように注意しながら塗装します。最良の結果を得るには、ブラシではなくスプレーを使用します。塗料が完全に乾いてから作業を始めてください。グリルの裏側の表面は塗らないでください。

**注意：** Retrofitバックボックスは、すべての天井埋込型Motionシリーズスピーカーでご利用いただけます。このバックボックスは、スピーカーが設置されている場所の上方への音の「漏れ」を抑えます。例えば、階下にホームシアターを建設し、スピーカーを設置した場所の真上に居住スペースがある場合、このバックボックスを使用して音を封じ込め、スピーカーの上にいる人に迷惑がかからないようにすることが望ましい場合があります。



## よくある質問

**スピーカーの掃除方法を教えてください** スピーカーのホコリを取り除くには、きれいな布か柔らかいブラシを使用してください。ドライバーの上や近くに洗浄剤を吹き付けしないでください。

**どの程度の出力のアンプを使用すればよいですか？** お手持ちのスピーカーの推奨アンプ出力範囲内の定格のアンプをお勧めします。

**MartinLoganのスピーカーに最適な電子機器とケーブルのリストを提案していただけませんか？** 電子機器とケーブルの選択は、おそらく私たちが受け取る最も多い質問です。また、最も主観的なものです。私たちは、あるセットアップでうまくいくブランドが、別のセットアップでは他の誰かをイライラさせるということを繰り返し見てきました。私たちは多くのブランドを使い、大きな成功を収めています。繰り返しますが、お気に入りはありません。私たちは電子機器とケーブルを分け隔てなく使用しています。いくつかのブランドを試聴し、何よりも自分の耳を信じることをお勧めします。オーディオ機器やケーブルを追加購入する際の情報源としては、常に販売店が最適であり、インウォールケーブルの特別な安全要件について熟知しているはずで

**直射日光にさらされると、スピーカーの寿命やパフォーマンスに影響しますか？** 直射日光の当たる場所には置かないことをお勧めします。太陽からの紫外線(UV)は、グリルクロスやスピーカーコーンなどを劣化させる原因となります。少量の紫外線を浴びても問題はありません。一般に、ガラスを通して紫外線をフィルタリングすることで、悪影響は大幅に軽減されます。

---

## トラブルシューティング

### 音が出ない

- すべてのシステムコンポーネントの電源がオンになっていること、ミュートになっていないこと、バランスコントロールが正しく設定されていることを確認してください。
- 壁の電源コンセントが機能していることを確認してください。
- 電源コード、スピーカーケーブル、接続ケーブルをチェックしてください。
- ヘッドホンが接続されていないことを確認してください。
- アンプのスピーカーケーブルを、正常に機能しているスピーカー側のケーブルと交換してみます。別のスピーカーの音が出なくなる場合、システム内の他の機器(アンプ、プリアンプ、プロセッサなど)に問題がある可能性があります。
- 別のスピーカーをつないでみてください。音が出ないのは、システム内の他の機器(アンプ、プリアンプ、プロセッサなど)に問題があることを示唆している可能性があります。

### 低音不足や音像定位のあいまいさ

- スピーカーの配線を確認してください。極性は正しいですか？ (+)から(+), (-)から(-)に正しく接続されていますか？
- オプションのバックボックスを使用すると、ウーファーが利用できる空間が狭くなるため、スピーカーの低音出力が減少します。これは、他の場所に伝わる不要な音を減らすこととトレードオフの関係にあります。

## サービスについて

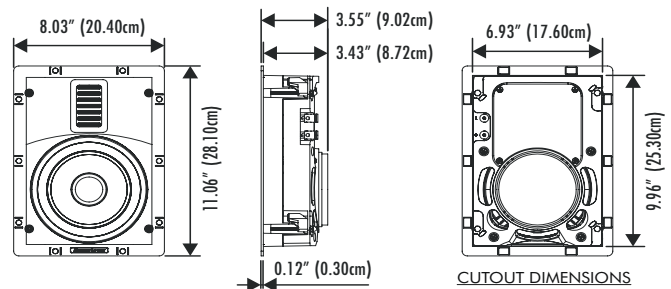
本機の保証は、その国のMartinLoganの販売代理店が、その国の保証に基づき販売した本機に対してのみ責任を負います。

# Specifications\*

## XTCW6

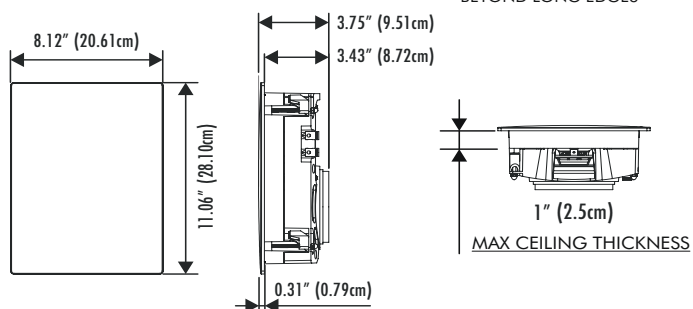
周波数特性.....	56 - 25,000 Hz ±3dB
ツイーター角度調整.....	なし
感度.....	91dB @2.83V/ 1 meter
インピーダンス.....	8 ohms
クロスオーバー周波数.....	2,460 Hz
高域ドライバー.....	FMT Transducer 3.22cm x 6.09cm 開口部 11.43cm x 6.98cm 振動板
低域ドライバー.....	16.51cm Kevlarコーン型
入力端子.....	12AWG対応プッシュタイプ
推奨アンプ出力.....	50-200 Watts
最大許容入力.....	100 Watts
質量.....	0.5 kg
全体寸法 (h x w x d).....	28.1 x 20.4 x 9.02cm
必要開口部.....	17.9 x 25.9cm
壁面からの突出.....	0.79cm
壁面からの必要奥行.....	8.72cm

\*仕様は予告なく変更される場合があります。



CUTOUT DIMENSIONS  
(WITH TOLERANCE)  
WIDTH: 7.00in [179mm]  
HEIGHT: 10.13in [259mm]

MOUNTING LOCKS  
EXTEND 0.375in [9.5mm]  
BEYOND LONG EDGES

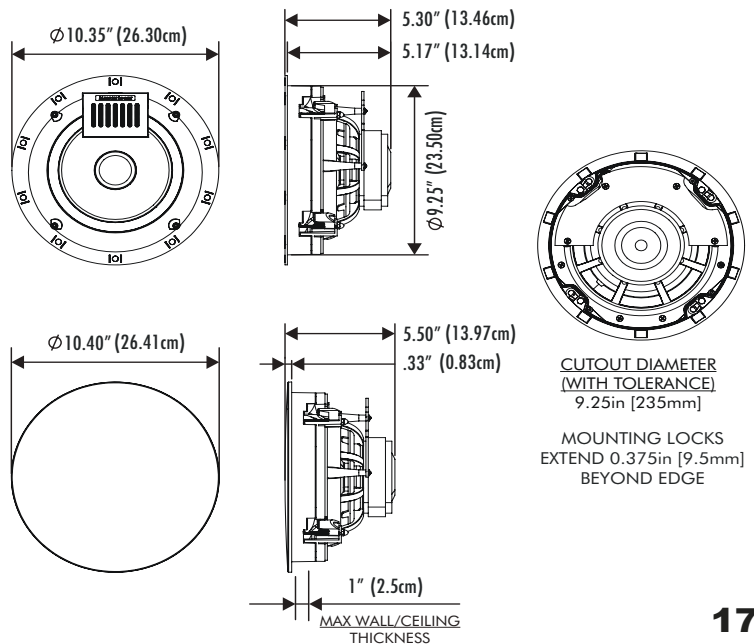




## XTC8

周波数特性.....	51 - 25,000 Hz $\pm$ 3dB
ツイーター角度調整.....	なし
感度.....	91dB @2.83V/ 1 meter
インピーダンス.....	8 ohms
クロスオーバー周波数.....	2,270 Hz
高域ドライバー.....	FMT 3.22cm x 6.09cm 開口部 11.43cm x 6.98cm 振動板
低域ドライバー.....	20.32cm Kevlarコーン型
入力端子.....	12AWG対応プッシュタイプ
推奨アンプ出力.....	15-300 Watts
最大許容入力.....	150 Watts
質量.....	0.5 kg
全体寸法(直径x奥行).....	26.30 x 13.46cm
必要開口部.....	23.5cm直径
壁面からの突出.....	0.83cm
壁面からの必要奥行.....	13.97cm

\*仕様は予告なく変更される場合があります。

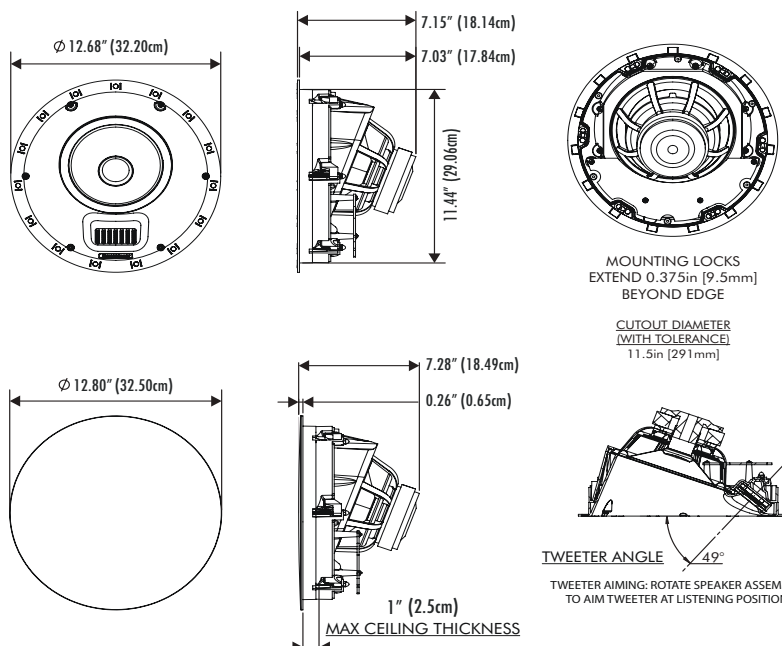


## Specifications\*

## XTC8-HT

周波数特性.....	51 - 25,000 Hz $\pm$ 3dB
ツイーター角度調整.....	回転
感度.....	91dB @2.83V/ 1 meter
インピーダンス.....	8 ohms
クロスオーバー周波数.....	2,000 Hz
高域ドライバー.....	FMT 3.22cm x 6.09cm 開口部 11.43cm x 6.98cm 振動板
低域ドライバー.....	20.32cm Kevlar コーン型
入力端子.....	12AWG対応プッシュタイプ
推奨アンプ出力.....	50-300 Watts
最大許容入力.....	150 Watts
質量.....	2.4 kg
全体寸法(直径x奥行).....	32.2 x 18.14cm
必要開口部.....	29.1cm 直径
壁面からの突出.....	0.65cm
壁面からの必要奥行.....	17.84cm

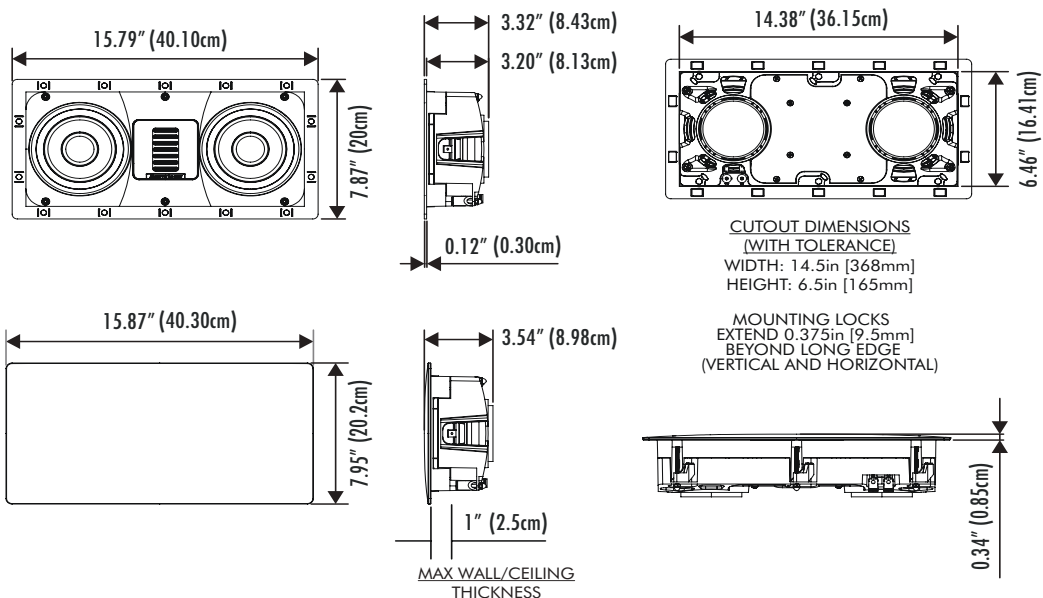
\*仕様は予告なく変更される場合があります。



## XTW5-LCR

周波数特性.....	61 - 25,000 Hz ±3dB
ツイーター角度調整.....	なし
感度.....	92dB @2.83V/ 1 meter
インピーダンス.....	8 ohms
クロスオーバー周波数.....	2,180 Hz
高域ドライバー.....	FMT 3.22cm x 6.09cm 開口部 11.43cm x 6.98cm 振動板
低域ドライバー.....	13.33cm Kevlar コーン型
入力端子.....	12AWG対応プッシュタイプ
推奨アンプ出力.....	50-250 Watts
最大許容入力.....	125 Watts
質量.....	2 kg
全体寸法 (h x w x d).....	20 x 40.1 x 8.43cm
必要開口部.....	36.8 x 16.5cm
壁面からの突出.....	0.3cm
壁面からの必要奥行.....	8.13cm

\*仕様は予告なく変更される場合があります。

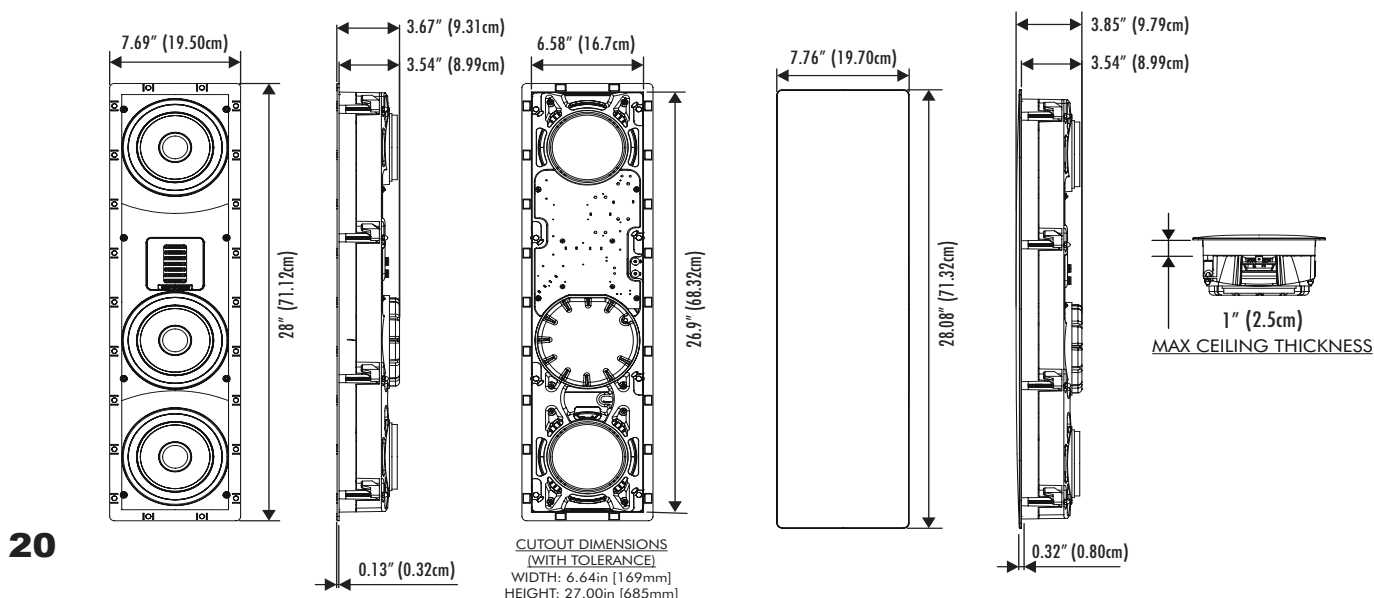


## Specifications\*

## XTW6-LCR

周波数特性.....	44 - 25,000 Hz ±3dB
ツイーター角度調整.....	なし
感度.....	1 meter
インピーダンス.....	8 ohms
クロスオーバー周波数.....	260, 2,470 Hz
高域ドライバー.....	FMT 3.22cm x 6.09cm 開口部 11.43cm x 6.98cm 振動板
低域ドライバー.....	16.51cm Kevlar コーン型
入力端子.....	12AWG対応プッシュタイプ
推奨アンプ出力.....	50-300 Watts
最大許容入力.....	150 Watts
質量.....	1.6 kg
全体寸法 (h x w x d).....	71.12 x 19.5 x 9.31cm
必要開口部.....	16.9 x 68.5cm
壁面からの突出.....	0.32cm
壁面からの必要奥行.....	8.99cm

\*仕様は予告なく変更される場合があります。



# **PDN**

株式会社PDN

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134

<https://pdn.co.jp>

横浜ビジネスパークノーススクエアI-4階